

第三輯 第五編 産業 第六章 漁業

築瀨 一名 マツバク 松葉磯  
こし ウモシ ようたひ 築磯 一名 たもり磯  
飼埋

第 七 章  
産 業

狩 獵

第三輯 第五編 産業 第七章 狩獵

### 第七章 狩獵

- 狩獵法
  - 狩獵法施行規則
- 大正七年 法律三號……一頁  
 大正八年 農令二六號……三

### 第七章 狩獵

#### ○狩獵法

(大正七年四月四日  
法律第三十二號)  
〔改正〕  
(大正一一年  
法律第七四號)

**第一條** 狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス  
狩獵鳥獸ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ其ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

**第二條** 狩獵鳥類ノ雛及鳥類ノ卵ハ主務大臣ノ定ムルモラヲ除クノ外之ヲ捕獲又ハ採取スルコトヲ得ス

**第三條** 狩獵鳥獸ハ狩獵免許ヲ受クルニ非サレハ主務大臣ノ定ムル銃器、網、鞆繩、簾、鉤又ハ罟ヲ使用シテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ欄、柵共ノ他ノ圍障ナル邸宅地域内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限リニ在ラス

**第四條** 地方長官必要ト認ムルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前條ノ規定ニ依ル銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テスル狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

**第五條** 狩獵免許ハ甲乙二種トシ狩獵免狀ヲ下付ス  
甲種狩獵免狀ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ、乙種狩獵免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ之ヲ下付ス

狩獵免狀ノ有効時間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ノ期間内ニ於テ特ニ其ノ狩獵ノ期間ヲ限定スルコトヲ得

前二項ノ期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス  
**第六條** 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタル者ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

**第七條** 未成年者、白痴者又ハ瘋癲者ハ乙種狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

乙種狩獵免許ヲ受ケタル者白痴者又ハ瘋癲者ト爲リタルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

**第八條** 狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

- 一等 所得稅二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族 五十圓
- 二等 所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族 三十圓
- 三等 一等及二等以外ノ者 十五圓

前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

**第九條** 主務大臣又ハ地方長官ハ鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲又ハ土地所有





第二十五條 獵區ヲ設定セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 獵區ノ名稱

二 事務所ノ位置

三 獵區ノ區域

四 獵區ト爲サムトスル土地ノ地目別面積又ハ海面ノ面積

五 獵區ノ存続期間

六 第二十二條ノ承認料額

七 狩獵日ヲ制限セムトスルトキハ其ノ方法及日數、狩獵者ノ員數ヲ制限セムトスルトキハ其ノ員數

八 鳥獸ノ保護蕃殖ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ方法

九 獵區内ニ於ケル鳥獸棲息ノ狀況

前項ノ書面ニハ獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面第十八條ノ同意ヲ證スル書面並獵區設定ニ關スル決議ヲ添附スヘシ

第二十六條 獵區設定者前條第一項第三號、第五號又ハ第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前條第一項第三號ノ事項ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ其ノ申請書ニ區域ノ變更ヲ示ス圖面及新ニ區域内ニ編入スヘキ土地アルトキハ第十八條ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十七條 第十六條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請セムトスルトキハ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ第十八條ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間満了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二十八條 獵區設定者第二十五條第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第二十九條 農商務大臣獵區ノ設定又ハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ爲シタルトキハ第二十五條第一項第一號乃至第三號、第五號及第六號ノ事項、第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依ル認可ヲ爲シタルトキ若

ハ前條ノ届出ヲ受理シタルトキハ其ノ事項ヲ告示スヘシ

第三十條 獵區設定者ハ其ノ獵區ニ管理者又ハ巡守ヲ置クコトヲ得

獵區設定者管理者又ハ巡守ヲ置キタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ農商務大臣ニ届出テ且證票ヲ携帯セシムヘシ

第三十一條 獵區管理者又ハ巡守ハ何時ニテモ獵區内ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スル者ニ對シ第二十一條ノ承認證ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第三十二條 獵區設定者ハ獵區ノ區域ヲ表示スル爲必要ナル標識ヲ設クヘシ

第三十三條 獵區設定者獵區ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ農商務大臣ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十四條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ獵區設定者ニ對シ獵區設定ノ認可ヲ取消シ第二十五條第一項第三號、第五號若ハ第六號ノ事項ヲ變更

又ハ有害鳥獸ノ驅除ヲ命ジ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 第九條第一項又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ料料ニ處ス

第三十六條 本則ニ依リ農務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第三十七條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附 則

第三十八條 本則ハ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條 共同狩獵地ノ免許期間ノ更新ヲ申請セムトスル者ハ其ノ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ區域内ノ土地所有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間満了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農務大臣ニ差出スヘシ

第四十條 共同狩獵地ニ付テハ前條ノ外仍從前ノ例ニ依ル

第四十一條 禁獵區及銃獵禁止區域ノ木標又ハ制札ニシテ本則施行前設ケタルモノハ本則ニ依リ之ヲ設ケタルモノト看做ス

産業 第八章 組合

第八章 組合

- ◎産業組合法 明治三年 法律三四號……一頁
- ◎産業組合法施行規則 明治四年 農令三五號……一三
- ◎産業組合中央金庫法 大正二年 法律四二號……一五
- ◎産業組合中央金庫設立ニ關スル件 大正二年 勅令三三三號……一九
- ◎産業組合中央金庫法施行規則 大正二年 農令一六號……二二
- ◎重要物産同業組合法 明治三年 法律三五號……二二

# 第八章 組合

## ◎産業組合法

(明治三十三年三月七日)

法律第三十四號

(改正) (明治三十九年)

法律第四五號

(同四二年)

法律第二七號

(大正六年)

法律第二二號

(同〇年)

法律第七三號

(同二年)

法律第四四號

### 第一章 總則

**第一條** 本法ニ於テ産業組合トハ組合員 産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲メ左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ

一 組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト(信用組合)

二 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セシメテ之ヲ賣却スルコト(販賣組合)

三 産業又ハ經濟ニ必要ナル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セシメテ又ハ之ヲ生産シテ組合員ニ賣却スルコト(購買組合)

四 組合員ヲシテ産業又ハ經濟ニ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト(利用組合)

信用組合ハ組合員外ノ者ニシテ組合加入ノ豫約ヲ爲シタルモノノ出資一口ノ金額及出資一口ニ付定款ノ定ムル所ニ依リ加入ニ關シ拂込ムヘキ金額ノ合計額ニ達スル迄ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

信用組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及組合員ト同一ノ家ニ在ル者、公共團體又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

市又ハ主務大臣ノ指定スル市街地カ組合ノ區域ニ屬スル信用組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ其ノ産業若ハ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ノ爲メ手形ノ割引ヲ爲シ又ハ前二項ノ貯金ノ外組合ノ區域内ニ居住スル組合員外ノ者ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル貯金ハ有限責任組合ニ在リテハ出資總額及準備金其ノ他ノ積立金ノ額ノ合計、保證責任組合ニ在リテハ之ニ保證金額ヲ加ヘタル合計、無限責任組合ニ在リテハ出資總額ノ五倍及準備金其ノ他ノ積立金ノ額ノ合計ヲ超エ之ヲ受入ルコトヲ得ス

第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合ハ第一項第二號乃至第四號ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

**第二條** 産業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス無限責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ、有限責任組合ニ在リテハ組合員ノ全員カ其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ、保證



責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第三條 産業組合ノ住所ハ其ノ主たる事務所ノ所在地ニ在ルモノトス  
第四條 産業組合ノ名稱中ニハ其ノ組織及目的ヲ示スヘキ文字ヲ用ウヘシ  
産業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條 産業組合ニハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 産業組合ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

第二章 設立

第七條 産業組合ハ七人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第八條 組合ノ設立者ハ定款ヲ作り之ヲ主たる事務所所在地ノ地方長官ニ差出シ設立ノ許可ヲ請フヘシ

第九條 定款ニハ本法ニ規定アルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 組織
- 三ノ二 區域

110442  
110443

二 設立許可ノ年月日  
三 理事及監事ノ氏名、住所  
前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十五條 行政區劃又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ノ記載ハ變更セラレタルモノト看做ス但シ其ノ記載ヲ更正スルコトヲ妨グス

第十六條 民法第四十五條第二項、第三項及第四十八條ノ規定ハ期間ヲ除クノ外産業組合ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ二 第十二條ノ拂込アリタルトキハ組合ニ二週間内ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出テ同時ニ組合原簿ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出及提出アリタルトキハ地方長官ハ遲滯ナク各事務所所在地ノ登記所ニ設立ノ登記ヲ囑託シ且主たる事務所所在地ノ登記所ニ組合原簿ヲ送付スヘシ

第十六條ノ三 第十四條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ組合ニ二週間内ニ變更ノ登記ヲ爲スヘキ事項ヲ地方長官ニ届出ツヘシ但シ登記ノ事由カ地方長官ノ認可其ノ他ノ處分ニ因リ生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ地方長官ハ遲滯ナク各事務所所在地ノ登記所ニ登記ノ囑託ヲ爲スヘシ前項但書場合亦同シ

第十六條ノ四 組合ハ主たる事務所ノ移轉又ハ組織變更ノ登記ニ關スル

第三輯 第五編 産業 第八章 組合

四 事務所  
五 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法  
六 第一回拂込ノ金額

七 剩餘金處分及損失分擔ニ關スル規定  
八 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九 組合員タル資格ニ關スル規定  
十 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

十一 組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定  
十二 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

信用組合ノ區域ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外市町村ノ區域内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條 産業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十一條 出資一口ノ金額ハ均ニ之ヲ定ムヘシ  
出資一口ノ金額ノ最高限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 組合カ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十三條 前條ノ拂込アリタルトキハ各事務所所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十四條 登記スヘキ事項左ノ如シ  
一 第九條第一號乃至第五號及第十二號ニ掲ケタル事項

110442  
110443

届出ヲ爲スト同時ニ組合原簿ヲ地方長官ニ提出スヘシ但シ同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

地方長官ハ主たる事務所所在地ノ登記所ニ前項ノ登記ヲ囑託スルト同時ニ組合原簿ヲ送付スヘシ

第十六條ノ五 組合原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 出資ノ總口數  
二 拂込ミタル出資ノ總額  
三 無限責任組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名、住所

四 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名、住所及保證金額ヲ登記所ノ受理シタル組合原簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第十四條第二項及第十五條ノ規定ハ組合原簿ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ六 第六條ノ三ノ規定ハ組合原簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

組合員ノ加入ノ場合ニ於テハ無限責任組合ニ在リテハ加入者ノ氏名及住所ヲ、保證責任組合ニ在リテハ加入者ノ氏名住所及保證金額ヲ記載シタル組合原簿ヲ加入ノ日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ提出シ地方長官ハ遲滯ナク之ヲ主たる事務所所在地ノ登記所ニ送付スヘシ

組合原簿ニ記載シタル事項ノ變更ノ届出又ハ組合原簿ノ提出ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ事業年度ノ終ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ組

第三輯 第五編 産業 第八章 組合

合員ノ脱退又ハ保證金額ノ減少ニ付テハ總組合員ノ同意ヲ以テ定款ニ之ヲ定メタル場合ニ限ル

第三章 組合員ノ權利義務

第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ三十口ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ五十口迄之ヲ増加スルコトヲ得

第十八條 組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ

第二十條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十一條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十二條 新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生ジタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス

第二十三條 組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得

第二十四條 組合員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法ヲ法令又ハ定款ニ違背スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得

第四章 管理

第二十五條 産業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 理事又ハ監事ハ何時ニモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 理事及監事ノ選任及解任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 理事ハ定款及總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條ノ二 組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 各組合員ノ氏名、住所
- 二 各組合員ノ出資口數
- 三 各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日
- 四 出資各口ノ取得ノ年月日
- 五 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

第三十條 理事ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムシ

第三十一條ノ二 産業組合力其ノ組合員ニ對シテ爲ス通知又ハ催告ハ組合員名簿ニ記載シタル組合員ノ住所又ハ其ノ者力組合ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第三十二條 民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第六十條及第六十一條第一項ノ規定ハ産業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス

第三十三條 監事ハ理事其ノ他組合ノ事務員ト相兼スルコトヲ得ス

第三十四條 民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第三十四條ノ二 理事缺ケタルトキハ總會ノ招集ハ監事之ヲ行フ

理事力第三十三條ノ規定ニ依ル請求アリタル日ヨリ二週間内ニ正當ノ事由ナクシテ總會招集ノ手續ヲ爲サルトキハ監事ハ其ノ總會ヲ招集スヘシ

第三十五條 組合力理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表スル

合ト理事トノ間ノ訴訟ニ付テモ亦同シ

第三十六條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十七條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第三十八條 民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス

第三十八條ノ二 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ハルヘキ總代會ヲ設クルコトヲ得

總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第四十條 組合力出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルヘシ

組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ定款ノ定ムル方法ニ從ヒテ公告シ且知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第四十一條 債権者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ヘサリトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債権者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス

第四十二條 前二條ノ規定ハ保證責任組合カ組合員ノ保證金額ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 組合員カ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ

前項ノ配當スヘキ剩餘金ノ計算ニ付テハ計算上不便ナル拂込金ノ端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得

第四十四條 組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

剩餘金配當ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除ク外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四十六條 組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第四十六條ノ二 信用組合ハ第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ總額ノ四分ノ一以上ノ金額ヲ拂戻準備金トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ管理スヘシ

前項ノ金額ハ事業年度ニ從ヒ毎六箇月末日現在ノ貯金總額ニ依リ之ヲ

トヲ得ス

第五十一條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

一 組合員タル資格ノ喪失

二 死亡

三 破産

四 禁治産

五 除名

第五十二條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第五十三條 脱退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條 脱退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脱退シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之ヲ定ム但シ定款ノ定ムル所ニ依リ脱退當時ノ

財産ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得

第五十五條 持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ但シ前條但書ノ場合ニ於テハ脱退ノ時ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

定ム

第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ヲ爲シタル者ハ第一項ノ拂戻準備金ノ上ニ先取特權ヲ有ス

第四十六條ノ三 有限責任又ハ保證責任ノ信用組合第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ニ關スル債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各理事連帶シテ之ヲ辨償スルノ責ニ任ス

前項ノ規定ニ依ル理事ノ責任ハ其ノ退任前ノ債務ニ付退任ノ登記後二箇年間仍存続ス

第四十七條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス

第四十八條 組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受リルコトヲ得ス

第五章 加入及脱退

第四十九條 組合員ノ加入ハ無限責任組合ニ在リテハ總組合員ノ同意アルコトヲ要ス

前項ノ同意ニ付テハ組合ハ總組合員ニ對シ加入ニ異議アラハ二週間ヲ下ラサル一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ期間内ニ異議ヲ述ヘサル者ハ同意ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十條 定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハズ組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得但シ六箇月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヘシ

前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得

第五十六條 持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ脱退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムヘシ

第五十七條 脱退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完済スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第五十八條 無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脱退シタル組合員ハ脱退前ノ組合債権者ニ對シ其ノ脱退ヲ組合原簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依ル期間ハ總組合員ノ同意アルトキハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ第一項ノ規定ニ違背セザル限リ之ヲ短縮スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四十條及第四十二條ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ持分ヲ讓渡シタル組合員ニ之ヲ準用ス

第六章 監督

第五十九條 産業組合ハ主務大臣、地方長官及郡長之ヲ監督ス

第六十條 監督官廳ハ何時ニモ理事又ハ清算人ヲシテ組合ノ事業、財産又ハ清算事務ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

監督官廳ハ組合清算ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ組合ニ對シ其ノ財産ノ供託ヲ命スルコトヲ得

産ノ供託ヲ命スルコトヲ得

第六十條ノ二 理事ノ缺タル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ假ニ理事ヲ選任スルコトヲ得

第六十一條 組合ノ事業又ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲カ定款若ハ法令ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルトキハ主務大臣又ハ地方長官ハ總會ノ決議ヲ取消シ、理事、監事若ハ清算人ノ改選ヲ命ジ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ヲ解散スルコトヲ得

第七章 解散

第六十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議
- 三 組合ノ合併
- 四 組合員カ七人未滿ニ減シタルトキ
- 五 組合ノ破産

第二十八條ノ規定ハ解散及合併ノ決議ニ之ヲ準用ス但シ無限責任組合カ合併セムトスルトキ又ハ保證責任組合若ハ有限責任組合カ合併ニ因リテ組織變更ト同一ノ結果ヲ生スヘキトキハ其ノ合併ニ付總會員ノ同意アルコトヲ要ス

第六十三條 組合カ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

有ス

第七十一條 清算人ハ就職後遅滞ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及貸借對照表ヲ作リ之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第七十三條 清算事務カ終リタルトキハ清算人ハ遅滞ナク決算報告書ヲ作リ之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十三條ノ二 清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺タル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十三條ノ三 重要ナル事由アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十四條 清算人ノ選定アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名、住所ヲ登記スヘシ

第十四條第三項及第十六條ノ三ノ規定ハ清算人ニ關スル登記ニ之ヲ準用ス

第七十四條ノ二 清算終了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條 民法第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

第九章 産業組合聯合會及産業組合中央會

第十四條第二項及第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條ノ二 合併ニ因リテ組合ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ選任ニ之ヲ準用ス

第六十四條 第四十條及第四十一條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 總會ノ決議ニ因リテ解散又ハ合併ハ地方長官ノ認可ヲ受タルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六十六條 組合カ合併ヲ爲シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存続スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第七十條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第六十八條 組合ハ總會員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更スルコトヲ得

組合カ組織變更ニ因リ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ第四十條及第四十一條ニ定メタル手續ヲ爲スヘシ

第六十九條 民法第七十條ノ規定ハ産業組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第八章 清算

第七十條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ

第七十六條 産業組合聯合會ハ左ノ目的ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

一 所屬組合ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セムルコト(信用組合聯合會)

二 所屬組合ノ賣却スル物ニ加工シ又ハ加工セシメテ之ヲ賣却スルコト(販賣組合聯合會)

三 所屬組合ノ購買スル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セシメテ又ハ之ヲ生産シテ所屬組合ニ賣却スルコト(購買組合聯合會)

四 所屬組合ヲシテ必要ナル設備ヲ利用セムルコト(利用組合聯合會)

産業組合聯合會ハ産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成ス但シ信用組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ行フ聯合會ヲ以テ、販賣組合聯合會及購買組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ行ハサル産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ得

第七十六條ノ二 信用組合聯合會ハ日本勸業銀行、日本興業銀行、北海道拓殖銀行、農工銀行又ハ産業組合中央金庫ニ對シ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ債務ノ保證ヲ爲シタルトキハ信用組合聯合會ハ銀行又ハ産業組合中央金庫ノ委任ヲ受ケ其ノ債權ノ取立ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 産業組合聯合會ハ社團法人トス

産業組合聯合會ノ組織ハ有限責任及保證責任ノ二種トス

保證責任産業組合聯合會ノ所屬組合及所屬聯合會ノ保證責任ハ其

保證責任産業組合聯合會ノ所屬組合及所屬聯合會ノ保證責任ハ其

ノ出資總額ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第七十八條 産業組合又ハ産業組合聯合會カ産業組合聯合會ニ加入シ又ハ脱退セムトスルトキハ總會ノ決議ニ依ルヘシ  
第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第七十九條 産業組合聯合會ノ區域ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外道府縣ノ區域内ニ於テ之ヲ定ムヘシ  
主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ異ニスルニ箇以上ノ産業組合聯合會カ合併セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

區域カ道府縣ノ區域ヲ超ユル産業組合聯合會ノ監督其ノ他ノ職務ハ其ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フ  
第八十條 産業組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ理事及監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ニ非サル者ヨリ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

産業組合聯合會設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ  
第八十一條 産業組合聯合會ニハ本章ニ規定アルモノヲ除クノ外産業組合ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第七十九條第二項ノ規定ニ依ル合併ニ付テハ登記スヘキ事項ノ届出、組合原簿ノ提出及送付並登記ノ囑託ニ關スル規定中地方長官トアルハ合併後存続スル産業組合聯合會又ハ合併ニ因リテ設立シタル産業組合聯合會ノ主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方

長官トアルハ主務大臣トス  
第八十八條 産業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クヘシ  
第八十九條 産業組合中央會ノ理事及監事ハ會員タル産業組合又ハ産業組合聯合會ノ理事、監事及第八十五條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ  
第九十條 産業組合中央會ノ總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ中ヨリ選出シタル代表者ヲ以テ組織ス但シ第九十二條ニ於テ準用シタル第六十二條第一項第二號ノ總會ハ會員ヲ以テ組織ス  
第九十一條 産業組合中央會ハ主務大臣之ヲ監督ス  
第九十二條 第三條、第五條乃至第七條、第十條、第十五條、第十六條、第二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十條乃至第三十五條、第三十九條第一項、第四十七條、第六十條、第六十一條、第六十二條第一項第一號第二號第四號第五號、第六十三條、第六十五條、第六十九條乃至第七十五條、第八十條第二項、第九十三條ニ及第九十四條並民法第六十二條及第六十四條ノ規定ハ産業組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第六十五條、第七十三條ニ及第七十三條ノ三中並第六十三條、第七十四條及第七十四條ニ三於テ準用シタル第十六條ノ三中地方長官トアルハ主務大臣トス

三 會員ノ加入及脱退ニ關スル規定

四 會員ノ權利義務ニ關スル規定

五 資産ニ關スル規定

六 役員ニ關スル規定

七 會議ニ關スル規定

八 事業ノ執行ニ關スル規定

九 定款ノ變更ニ關スル規定

十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定ムタルトキハ其ノ時期又ハ事由ノ定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生ズ

第八十七條 産業組合中央會設立ノ許可アリタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ  
登記スヘキ事項左ノ如シ

一 目的及第八十二條第三項ノ規定ニ依ル事業ノ種類  
二 第八十六條第一項第一號、第二號及第十號ニ掲ケタル事項  
三 資産ノ總額  
四 設立許可ノ年月日  
五 理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十六條ノ三ノ規定ハ第一項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ同條中地方

方長官トス

第八十二條 産業組合中央會ハ産業組合及産業組合聯合會ノ普及、發達及聯絡ヲ圖ル目的ヲ以テ設立スルコトヲ得  
産業組合中央會ハ社團法人トス  
産業組合中央會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ産業組合ノ事業ノ一部ヲ行フコトヲ得

第八十三條 産業組合中央會ノ名稱中ニ「産業組合中央會」ナル文字ヲ用ヅルヘシ  
産業組合中央會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ「産業組合中央會」ナル文字ヲ用ヅルコトヲ得ス  
（キ文字ヲ用ヅルコトヲ得ス）

第八十四條 産業組合中央會ハ全國ヲ通シテ一箇トシ其ノ設立ハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ  
産業組合中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條 産業組合及産業組合聯合會ハ産業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得  
前項以外ノ者ト雖定款ノ定ムル所ニ依リ産業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第八十六條 産業組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 名稱  
二 事務所

長官トアルハ主務大臣トス

第八十八條 産業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

第八十九條 産業組合中央會ノ理事及監事ハ會員タル産業組合又ハ産業組合聯合會ノ理事、監事及第八十五條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第九十條 産業組合中央會ノ總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ中ヨリ選出シタル代表者ヲ以テ組織ス但シ第九十二條ニ於テ準用シタル第六十二條第一項第二號ノ總會ハ會員ヲ以テ組織ス  
第九十一條 産業組合中央會ハ主務大臣之ヲ監督ス

第九十二條 第三條、第五條乃至第七條、第十條、第十五條、第十六條、第二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十條乃至第三十五條、第三十九條第一項、第四十七條、第六十條、第六十一條、第六十二條第一項第一號第二號第四號第五號、第六十三條、第六十五條、第六十九條乃至第七十五條、第八十條第二項、第九十三條ニ及第九十四條並民法第六十二條及第六十四條ノ規定ハ産業組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第六十五條、第七十三條ニ及第七十三條ノ三中並第六十三條、第七十四條及第七十四條ニ三於テ準用シタル第十六條ノ三中地方長官トアルハ主務大臣トス

第十章 罰則

第九十三條 組合ノ理事又ハ監事何等ノ名義ヲ以テスル間ハ組合ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付若ハ手形ノ割引ヲ爲シ又ハ投機取引ノ爲ニ組

合財産ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セズ

第九十三條ノ二 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上三百圓以下ノ過料ニ處セラル

一 本法ニ定メラレタル届出若ハ組合原簿ノ提出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シ若ハ組合原簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

三 第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背シ又ハ第二十九條第一項及第三十條第一項ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ

又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ若ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

四 第一條第五項、第四十三條、第四十五條乃至第四十六條ノ二、第四十八條又ハ第七十二條ノ規定ニ違背シタルトキ

五 第六十條ノ報告ヲ爲サズ又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

六 民法第七十九條ノ期間内ニ債權者ニ辨償ヲ爲シタルトキ

七 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

八 民法第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ違背シタルトキ

務所

二 登記ノ目的及事由

三 年月日

四 登記所ノ表示

第九十九條 設立登記ト嘱託書ニハ定款及届書ヲ添附シ其ノ他ノ登記ノ嘱託書ニハ届出ニ因ル場合ニ於テハ届書ヲ添附スヘシ

第一百條乃至第一百三條 (削除)

第一百四條 本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合原簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一百五條 非訟事件手續法第三百八條、第三百八條ノ二、第四百一條乃至第四百十六條、第四百十八條、第四百十八條ノ二、第四百五十一條乃至第四百五十六條、第四百五十四條乃至第四百五十八條、第四百五十五條及第四百七十五條ノ規定ハ産業組合、産業組合聯合會及産業組合中央會ニ之ヲ準用ス

第一百六條 本法ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

◎産業組合法施行規則

(明治四十二年八月二十一日) (農商務省令第三十五號) (大正六年) (省令第三〇號) (同一〇〇年) (省令第二四號)

第一條 信用組合ノ区域内ニ住居スル者ニ非サレハ加入ノ豫約ヲ爲スコト

九 組合ノ目的タル事業ニ非サル營利事業ヲ營ミタルトキ

第十條 第四十條又ハ第四十一條ノ規定ニ違背シテ出資一口ノ金額若ハ組合員ノ保證金額ヲ減少シ、第五十八條ノ規定ニ依ル責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合ノ合併若ハ組織變更ヲ爲シタルトキ

十一 法令又ハ定款ニ違背シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

第九十三條ノ三 第四條第二項又ハ第八十三條第二項ノ規定ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル

第九十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第九十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ(明治三十三年七月九日) (省令第三〇號) (同一〇〇年) (省令第二四號)

第九十六條 産業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所産業組合聯合會及産業組合中央會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

第九十七條 各登記所ニ産業組合登記簿、産業組合聯合會登記簿及産業組合中央會登記簿ヲ備フ

第九十八條 登記ノ嘱託ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

嘱託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 産業組合、産業組合聯合會又ハ産業組合中央會ノ名稱及事

ヲ得ス

前項ノ豫約者ニ對スル貯金ノ拂戻ハ豫約ノ消滅シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

豫約者ハ其ノ貯金カ現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂戻金額ノ最小額ト同額ニ達シタル後ニ非サレハ組合員加入スルコトヲ得ス

豫約者カ豫約後三箇年ヲ經過シ尙ホ組合員ト爲ルニ至ラサルトキハ組合員ハ豫約ノ解除ヲ爲スヘシ

第二條 出資一口ノ金額ハ組合員ニ在リテハ五十圓、聯合會ニ在リテハ五百圓トシテ之ヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第四條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 組合若ハ聯合會カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徴收シ若ハ新ニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増口金ヲ徴收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脱退シタル組合員又ハ組合若ハ聯合會ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ殘額ニ付亦同シ

第六條 總代會ハ組合員ニ在リテハ五百人以上ノ組合員、聯合會ニ在リテハ百人以上ノ所屬組合及所屬聯合會ヲ有スルニ非サレハ之ヲ設タルコトヲ得ス

第七條 總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選舉ニ關スル規定ヲ設ケヘシ

第八條 産業組合法第九十條ノ代表者ハ道府縣毎ニ會員之ヲ選舉スヘシ

第九條 理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第十條 組合、聯合會及中央會ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ二 産業組合法第一條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ受入及拂戻ニ付テハ組合員ノ貯金ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付クヘシ

第九條ノ三 登記又ハ組合原簿若ハ聯合會原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ理事又ハ清算人署名捺印スヘシ

前項ノ届書ニハ受附ノ年月日ヲ記載スヘシ地方長官ニ於テ受理シタル組合原簿及聯合會原簿ニ付亦同シ

第九條ノ四 地方長官ニ提出スル組合原簿、聯合會原簿又ハ其ノ記載事項ノ變更ノ届書ニハ記載事項又ハ其ノ變更ニ付監事ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ組合員ノ氏、名又ハ住所ノ變更ニ付テハ此ノ限りニ在ラス

前項ノ規定ハ産業組合法第八十七條第二項第三號ノ事項ノ變更ノ届書ニ之ヲ準用ス

第九條ノ五 登記又ハ組合原簿若ハ聯合會原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ手續ヲ該ミタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十條 理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後選任ナク産業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リテハ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十一條 組合又ハ聯合會ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 組合ニ在リテハ組合員ノ職業別ノ數並出資口數ノ異動、聯合會ニ在リテハ所屬組合及所屬聯合會ノ種類別ノ數並出資口數ノ異動

二 出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額

三 損益ノ計算、貸借入又ハ償還シタル金額及借入金ノ利率

三ノ二 準備金及各種ノ積立金

四 總會又ハ總代會ノ決議

五 事業ノ狀況

六 信用組合又ハ信用組合聯合會ニ在リテハ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額及件數、受入又ハ拂戻シタル貯金額及貯金ヲ爲シタル組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ數並貯金及貸付金ノ利率、産業組合法第一條第二項ノ豫約ヲ爲シタル信用組合ニ在リテハ豫約者ノ數及其ノ貯金額、販賣組合又ハ販賣組合聯合會ニ在リテハ受入又ハ販賣シタル物ノ種目別ノ數量及價額、購買組合又ハ購買組合聯合會ニ在リテハ買入若ハ生産又ハ賣却シタル物ノ種目別ノ數量及價額、利用組合又ハ利用組合聯合會ニ在リテハ利用ノ程度ヲ表示スヘキ事項

六ノ二 産業組合法第一條第三項ノ規定ニ依ル貯金ヲ取扱フ信用組合ニ在リテハ其ノ貯金者ノ種類別數、受入又ハ拂戻シタル貯金額及貯金ノ利率

六ノ三 産業組合法第一條第四項ノ信用組合ニ在リテハ形ノ種類別引枚數、金額及割引ノ歩合、組合員及組合員外ノ職業別及金額別ノ貯金者數及貯金額、受入又ハ拂戻シタル組合員外ノ貯金額及貯金ノ利率、預入先別預入又ハ引出シタル金額及預入金ノ利率並拂戻準備金ノ管理方法別ノ金額

六ノ四 信用組合聯合會ニ在リテハ産業組合法第七十六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ爲シタル保證ノ金額

七 處務ノ要件

前項ノ規定ハ中央會ノ事業報告書ニ之ヲ準用ス

第十二條 組合、聯合會又ハ中央會カ借入金ヲ爲サントスルトキハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入金ノ最高限度ヲ議決スヘシ

前項ノ規定ハ信用組合又ハ信用組合聯合會カ一事業年度ニ於ケル一組合員又ハ一所屬組合若ハ一所屬聯合會ニ對シテ爲シ付額又ハ手形ノ割引金額ノ最高限度ニ付之ヲ準用ス

理事ハ前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リテハ農商務大臣ニ送附ナク報告スヘシ

第十二條ノ二 定款變更ノ認可申請書ニハ理由書及總會又ハ總代會ノ決議書ヲ添附スヘシ

第十二條ノ三 理事又ハ監事ノ變更ノ届書ニハ其ノ變更カ總會又ハ總代會ノ決議ニ依ル場合ニ在リテハ其ノ決議書、其ノ他ノ場合ニ在リテハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十二條ノ四 産業組合法第十六條ノ六第二項及第三項ノ規定ニ依リ無制限責任組合ノ提出スル組合原簿ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十三條 出費一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ第十二條ノ二ニ掲ケタル書類ノ外財産目録及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十四條 剩餘金ノ配當ハ持分ノ全部若ハ一部又ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額若ハ事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

持分ノ全部若ハ一部ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六歩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ年一割迄之ヲ増加スルコトヲ得

第十四條ノ二 産業組合法第十六條ノ六第三項又ハ第五十八條第二項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ總會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

産業組合法第五十八條第三項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ第十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第十四條ノ三 産業組合法第六十二條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ノ届書ニハ其ノ事由ヲ記載シ解散ノ當時ニ於ケル監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十四條ノ四 總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議

議決、財産目録及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十五條 合併ノ認可申請書ニハ第十三條ニ掲ケタル書類ノ外合併契約書及合併後存続スル組合若ハ聯合會又ハ合併ニ因リテ設立スル組合若ハ聯合會ノ定款並産業組合法第六十三條ノ二ノ場合ニ於テハ申請者カ同條ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

産業組合法第六十二條第二項但書ノ規定ニ依ル合併ニ付テハ前項ニ掲ケタル書類ノ外組合ニ在リテハ總組合員、聯合會ニ在リテハ總所屬組合及總所屬聯合會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ責任ヲ減少スルトキハ尙ホ第十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第十六條ノ二 産業組合法第五十八條第三項ノ規定ニ依ル定款變更ノ場合ニ於テ組合又ハ聯合會カ産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ該ミタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添附シ送附ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十七條 組合又ハ聯合會カ中央會ニ加入シ又ハ脱退シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十七條ノ二 第十二條ノ三ノ規定ハ清算人ノ選任及其ノ變更ノ届書ニ之ヲ準用ス

第十七條ノ三 第十條ノ規定ハ清算人カ産業組合法第七十一條ノ規定ニ依ル承認ヲ經タル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條ノ四 清算終了ノ届書ニハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附スヘシ

第十八條 都長又ハ都長ノ職務ヲ行フヘキ者カ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハムトスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フ

第十九條 地方官カ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十條 本則中農商務大臣トアルハ大正六年勅令第二百號ニ依リ農商務大臣及大藏大臣ノ所管ニ係ルモノニ付テハ農商務大臣及大藏大臣トス

附 則

第二十一條 本則ハ明治四十二年法律第二十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
(明治四十二年九月一日ヨリ施行)

第二十二條 本則ハ明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ニハ之ヲ適用セス

◎産業組合中央金庫法

(大正十二年四月六日) (法律第四十二號)

第一章 總 則

第一條 産業組合中央金庫ハ法人トシ其ノ主たる事務所ヲ東京市ニ置ク産業組合中央金庫ノ組織ハ有限責任トス

第二條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得  
主務大臣ニ於テ從タル事務所ヲ必要ナリトスルトキハ産業組合中央金庫ニ命ジテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

第三條 産業組合中央金庫存立期間ハ設立許可ノ日ヨリ五十箇年トス但シ政府ノ許可ヲ經テ存立期間ヲ延長スルコトヲ得

第二章 役 員

第九條 産業組合中央金庫ニ理事長、副理事長各一人、理事、監事各三人以上ヲ置ク

第十條 理事長ハ産業組合中央金庫ヲ代表シテ其ノ事務ヲ總理ス  
副理事長ハ理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ  
副理事長及理事ハ理事長ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ産業組合中央金庫ノ業務ヲ掌理ス

第十一條 理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ任命ス  
理事長、副理事長及理事ノ任期ハ五箇年監事ノ任期ハ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

第十二條 産業組合中央金庫ニ評議員二十名以内ヲ置キ主務大臣之ヲ任命ス但シ其ノ半数以上ハ産業組合關係者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス  
評議員ハ名譽職トシ定款ノ定ムル所ニ依リ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ就キ理事長ノ諮問ニ應スルモノトス  
評議員ノ任期ハ三箇年トス

第十三條 産業組合中央金庫ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス  
第三章 業 務

第四條 産業組合中央金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三千万口ニ分テ一口ノ金額ヲ百圓トス

第五條 政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外産業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ス  
産業組合聯合會及産業組合ノ有スヘキ出資口數ハ二百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 政府ハ千五百萬圓ヲ限リ産業組合中央金庫ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後毎年五百萬圓宛拂込ムモノトス  
政府以外ノ出資者ハ其ノ出資ニ對シ設立當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十箇年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス  
政府ノ産業組合中央金庫ニ對シテ所有スヘキ持分ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 産業組合法中産業組合ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第八條 産業組合中央金庫ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス  
登錄稅法及印紙稅法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用スヘシ

一 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ擔保ヲ徵セシメテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト  
二 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト  
三 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ替業務ヲ爲スコト  
四 産業組合聯合會、産業組合、公共團體其ノ他營利ヲ目的トセサル法人ヨリ預リ金ヲ爲スコト

第十四條 産業組合中央金庫ハ必要アリト認メタル場合ニ於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號及第二號ノ業務ヲ爲スコトヲ得  
第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依リノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス  
一 國債又ハ公債ノ買入、大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便預金ト爲スコト  
二 産業組合聯合會又ハ産業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

第十六條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス  
第四章 産業債券

第十七條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第三輯 第五編 産業 第八章 組合



第三輯 第五編 産業 第八章 組合

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

所得税法及登録税法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

第十八條 産業債券ハ券面金額五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ

應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十九條 産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲ニ時第十七條ノ制限

ニ依ラス低利ノ産業債券ヲ發行スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行後二箇月以内ニ抽籤

ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊産業債券ヲ償還スヘシ

第二十條 産業組合中央金庫ニ於テ産業債券ヲ發行セムトスルトキハ主

務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 産業債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ五箇年、利子ニ在

リテハ五箇年ヲ以テ完成ス

第二十二條 産業債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用

ス

第五章 計算

第二十三條 産業組合中央金庫ノ事業年度ハ二箇年トス

第二十四條 産業組合中央金庫ハ毎事業年度ニ於テ準備金トシテ剰餘

金ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第六章 監督及補助

第二十五條 主務大臣ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監督ス

意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十三條 産業組合中央金庫ハ創初期ヨリ十五箇年間政府ノ出資

ニ對シ剰餘金ノ配當ヲ爲スコト要セス

第七章 罰則

第三十四條 左ノ場合ニ於テハ産業組合中央金庫ノ理事長、副理事

長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ

三 第十五條ノ規定ニ反シ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第十七條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

五 第十七條第一項及第十九條第二項ノ規定ニ反シタルトキ

第三十五條 非訟事件手続法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ

過料ニ之ヲ準用ス

附則

第三十六條 主務大臣ハ設立委員ヲ置キ産業組合中央金庫ノ設立ニ

關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十七條 設立委員ハ定款ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後出資

者ヲ募集ス

第三十八條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申立書ヲ主

務大臣ニ提出シ産業組合中央金庫設立ノ許可ヲ稟請スヘシ

第三輯 第五編 産業 第八章 組合

本法主務大臣トアルハ農商務大臣及大藏大臣トス

第二十六條 産業組合中央金庫ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務

大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ剩

餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ業務ニ關

スル諸般ノ狀況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十九條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ産業組合中央金庫ノ貸

付又ハ割引ノ金額若ハ方法ヲ制限スルコトヲ得

第三十條 産業組合中央金庫ノ貸付金利子ノ最高歩合ハ毎事業年度

ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ事業年度内ニ於テ之

ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十一條 主務大臣ハ特ニ産業組合中央金庫監理官ヲ置キ産業組

合中央金庫ノ業務ヲ監視セシム

第三十二條 産業組合中央金庫監理官ハ何時ニテモ産業組合中央金

庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ産

業組合中央金庫ニ命シテ業務上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコト

ヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ出資者總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席ス

前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サ

シムルコトヲ要ス

第三十九條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ産業組合

中央金庫理事長ニ引渡スヘシ

第四十條 産業組合中央金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之

ヲ定ム

◎産業組合中央金庫設立ニ關スル件 (大正十二年七月四日 勅令第百三十三號)

第一條 産業組合中央金庫ニ出資ノ申込ヲ爲サムトスル産業組合聯合

會又ハ産業組合ハ出資申立書三通ニ其ノ名稱及住所並其ノ引受クヘキ

口數ヲ記載シ其ノ代表者之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ出資申立書ハ設立委員之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 定款認可ノ年月日

二 目的

三 資本ノ總額

四 出費一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

五 出資第一回ノ拂込金額

六 申込ミ得ヘキ最高出資口數

七 主たる事務所ノ所在地及従タル事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ所在地

八 存立期間

九 公告ノ方法

十 産業組合中央金庫ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用

第二條 出資ノ申込ニ對シテ割當ニ付テハ設立委員、農商務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 産業組合中央金庫設立ノ許可ヲ稟請スル場合ニハ出資申立書ノ外各産業組合聯合會又ハ各産業組合ノ出資ノ割當口數ヲ記載シタル書面ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ提出スヘシ

第四條 出資ノ引受ヲ爲シタル産業組合聯合會又ハ産業組合カ出資第一回ノ拂込ヲ爲サルトキハ設立委員ハ一定ノ期間内ニ其ノ拂込ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ之ヲ爲サルトキハ其ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其ノ産業組合聯合會又ハ産業組合ニ通知スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ三週間ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ通知アリタルニ拘ラス出資ノ引受ヲ爲シタル産業組合聯合會又ハ産業組合カ其ノ期間内ニ拂込ヲ爲サルトキハ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テ設立委員ハ其ノ者ヲ引受ケタル出資ニ付更ニ出資者ヲ募集スヘシ

第五條 出資第一回ノ拂込ヲ終リタルトキハ設立委員ハ各出資者ノ出資口數、拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日ヲ記載シタル書面並産業組合中央金庫ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用ノ計算書ヲ提出シ農商務大臣及大藏大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 前條ノ承認アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集ス

第七條 創立總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ三週間前ニ各出資者ニ對シテ其通知ヲ發スヘシ

前項ノ通知ニハ會議ノ目的タル事項ヲ記載スヘシ

第八條 設立委員ハ産業組合中央金庫ノ設立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スヘシ

第九條 創立總會ハ出資者ノ半数以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

創立總會ニ於ケル決議ハ出席者ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第十條 創立總會ニ於ケル出資者ノ議決權ハ平等トス

第十一條 創立總會ニ於テハ出資者ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得

代理人タルコトヲ得ル者ハ出資者ニ限ル

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ設立委員ニ差出スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行フ者ハ之ヲ出席者ト看做ス

第十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 産業組合中央金庫理事長ハ設立委員ヨリ其ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ二週間内ニ其ノ旨ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ届出テ同時ニ産業組合中央金庫原簿ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ届出及提出アリタルトキハ農商務大臣及大藏大臣ハ各事務所所在地ノ登記所ニ設立ノ登記ヲ囑託シ且主たる事務所所在地ノ登記所ニ産業組合中央金庫原簿ヲ送付スヘシ

附 則

◎産業組合中央金庫法施行規則

(大正十二年七月五日 農商務省令第十六號)

第一條 産業組合中央金庫ニ對シテ政府ノ有スル持分ハ拂込済資本金ニ對スル政府ノ拂込済出資額ノ割合ニ依ルモノトス

第二條 資本金増加ノ場合ニ於テ加入金及増口金ヲ徴收セムトスルトキハ産業組合中央金庫ハ農商務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

加入金及増口金ハ準備金ニ組入ルヘシ

第三條 産業組合中央金庫ニ於テ總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選舉ニ關スル規定ヲ設クヘシ

總代ハ道府縣毎ニ出資者之ヲ互選スヘシ

第四條 産業組合中央金庫ハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一所屬産業組合聯合會又ハ一所屬産業組合ニ對シテ爲ス産業組合中央金庫法第十三條及第十四條ノ規定ニ依リ貸付又ハ手形ノ割引ニ付其ノ金額ノ最高限度ヲ議決スヘシ

前項ノ規定ハ産業組合中央金庫法第十五條ノ規定ニ依リ貸付ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ハ遲滞ナク之ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 剩餘金ノ配當ハ拂込出資額又ハ所屬産業組合聯合會及所屬産業組合ニ屬スルコトヲ得

第七條 創立總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ三週間前ニ各出資者ニ對シテ其通知ヲ發スヘシ

前項ノ通知ニハ會議ノ目的タル事項ヲ記載スヘシ

第八條 設立委員ハ産業組合中央金庫ノ設立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スヘシ

第九條 創立總會ハ出資者ノ半数以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

創立總會ニ於ケル決議ハ出席者ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第十條 創立總會ニ於ケル出資者ノ議決權ハ平等トス

第十一條 創立總會ニ於テハ出資者ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得

代理人タルコトヲ得ル者ハ出資者ニ限ル

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ設立委員ニ差出スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行フ者ハ之ヲ出席者ト看做ス

第十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 産業組合中央金庫理事長ハ設立委員ヨリ其ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ二週間内ニ其ノ旨ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ届出テ同時ニ産業組合中央金庫原簿ヲ提出スヘシ

合ニ對シ取扱ヒタル事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

拂込済出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス但シ準備金ノ額カ出資總額ノ四分ノ一ニ達シタルトキハ年八分迄又テ増加スルコトヲ得

第六條 産業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事及監事ノ報酬又ハ賞與ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

前項役員ノ報酬ノ額ハ農商務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 財産目録、貸借對照表及事業報告書ニ付總會又ハ總代會ノ承認アリタルトキハ産業組合中央金庫ハ遲滞ナク之ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ提出シ且定款ノ定ムル方法ニ從ヒ貸借對照表ヲ公告スヘシ

第八條 産業組合中央金庫ニ於テ事業施行ニ關スル規程ヲ設ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎重要物産同業組合法

第一條 重要物産ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

重要物産及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル

第二條 同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的ト爲ス

第三條 同業組合ヲ設置セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ノ同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條 同業組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ営ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 同業組合及同業組合聯合會ハ法人トス

同業組合及同業組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 同業組合及同業組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 同業組合及同業組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一 組長 一名  
一 副組長 若干名  
一 評議員 若干名  
前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ同業組合ニ於テハ組合員中ヨリ同業組合聯合會ニ於テハ聯合會ヲ組織スル同業組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ必要アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得

第九條 組長ハ其ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔任ス

副組長ハ組長ノ事務ヲ輔佐シ組長故障アルトキ之ヲ代理ス

評議員ハ組長ノ諮詢ニ應ジ及業務施行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

副組長及評議員ハ定款ノ規定ニ依リ組長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

組長副組長共ニ故障アルトキハ評議員之ヲ代理ス

第十條 同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ検査規定ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ検査スルコトヲ得

同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ違約者ニ關スル規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十一條 前條第一項ノ検査ヲ行フ同業組合及同業組合聯合會ニ在リテハ検査員ヲ置クヘシ

検査員ノ選任及解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 同業組合及同業組合聯合會ハ前條ノ検査ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 同業組合若クハ同業組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法律命令ニ違背シ又ハ公益ヲ害シ又ハ其ノ目的ニ違背シ又ハ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セザルトキハ農商務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 同業組合若クハ同業組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止

二 役員ノ解職

三 決議ノ取消

第十四條 同業組合若クハ同業組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意ニ依リ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 地方長官ハ其ノ管内ニ於ケル同業組合及同業組合聯合會ヲ監督シ必要アルトキハ意見ヲ具シ農商務大臣ノ處分ヲ請フヘシ

第十六條 農商務大臣ハ同業組合及同業組合聯合會ニ關シ其ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第十七條 第四條ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十八條 同業組合及同業組合聯合會ノ役員第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ命令ニ違背シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條 同業組合及同業組合聯合會ノ役員検査員其ノ他事務

第十四條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ヲ設ケシムルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合ノ地區ノ範圍、營業ノ種類若ハ定款ノ變更ヲ命シ又ハ同業組合聯合會ノ加入若ハ同業組合聯合

第十條ノ四 農商務大臣ハ重要輸出品ニ關スル同業組合又ハ同業組合聯合會ノ申請アルトキハ必要ト認ムルトキハ其ノ役員又ハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル役員ノ解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

重要輸出品ノ種類ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第十一條 同業組合及同業組合聯合會ノ經費ノ豫算並徵收法ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算及業務成績ハ毎年少クトモ一回組合員ニ公示シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條 同業組合及同業組合聯合會ハ其ノ事務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又其ノ諮問アルトキハ答申スヘシ

第十三條 農商務大臣ハ同業組合又ハ同業組合聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ經費ノ豫算又ハ其ノ徵收法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ヲ設ケシムルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合ノ地區ノ範圍、營業ノ種類若ハ定款ノ變更ヲ命シ又ハ同業組合聯合會ノ加入若ハ同業組合聯合

ニ従事スル者正當ノ理由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ本法ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ之ヲ忌避シタルトキ又ハ職務ノ執行ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五箇以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ四 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十條 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ證票若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證票若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ノ二 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ役員又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十條ノ三 前條第二項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十條ノ四 第二十條ニ掲グル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第二十條ノ二三掲

クル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附 則

第二十一條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要輸出品同業組合法ハ之ヲ廢止ス

第二十二條 重要輸出品同業組合法ニ依リテ設立シタル組合及聯合會ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

第二十三條 他ノ法律中重要輸出品同業組合法ヲ準用スヘキモノト定メタル場合ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ規定ヲ準用シ重要輸出品同業組合法中ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ之ニ相當スル本法ノ規定ヲ準用ス

産業 第九章 度量衡

第三輯  
第五編 産業  
第九章 度量衡

◎度量衡法

第九章 度量衡

明治四三年 法律四號……一頁

## 第九章 度量衡

### ● 度量衡法

(明治四十二年三月八日)  
法律第四號

〔改正〕(大正八年)  
法律第五〇號

(同一〇年)  
法律第七二號

#### 第一條

度量ハメートル、衡ハキログラムヲ以テ基本トス  
メートルハ融解シツアル純粹ノ水ノ氷ノ溫度ニ於ケル國際メートル原器ノ示  
ス所ノ長トス

キログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス

#### 第二條

メートルハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルメートル原器ニ依  
リ、キログラムハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニ依リ  
之ヲ現示ス

#### 第三條

度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

ミクロン	メートルノ百萬分ノ一
ミリメートル	メートルノ千分ノ一
センチメートル	メートルノ百分ノ一
デシメートル	メートルノ十分ノ一
メートル	
キロメートル	千メートル

第三輯 第五編 産業 第九章 度量衡

#### 面積

平方ミリメートル	平方メートルノ百萬分ノ一
平方センチメートル	平方メートルノ一萬分ノ一
平方デシメートル	平方メートルノ百分ノ一
平方メートル	
平方キログラム	百萬平方メートル

#### 量

立方センチメートル	立方メートルノ百萬分ノ一
立方デシメートル	立方メートルノ千分ノ一
立方メートル	

#### 衡

ミリグラム	キログラムノ百萬分ノ一
グラム	キログラムノ千分ノ一
キログラム	
トス	千キログラム

前項ニ規定スル度量衡又ハ其ノ倍數若ハ分數ニ依ル度量衡ニシテ土地  
又ハ液體ノ計量其ノ他特殊ノ場合ニ用ウルモノノ名稱命位ニ關シテハ勅  
令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 温度、密度、壓力、工率其ノ他ノ状態及能率ノ計量ノ單位ニシテ度量衡又ハ度量衡及度量衡ニ非サル他ノ單位ニ依リテ定ムルモノニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 第三條ニ掲タル度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保管ス 農商務大臣ハ前項ノ原器ニ依リ製作シタル副原器ニ組ヲ以テ前項ノ原器ニ代用ス

第五條ノ二 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依ラサル度量衡又ハ計量ノ單位ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外取引上又ハ證明上ニ之ヲ用ウルコトヲ得ス

第六條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ業ヲ營マムル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

第七條 度量衡器ノ製作、輸入、移入、又ハ修覆シタル者ハ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外其ノ檢定ヲ受クヘシ

檢定ニ合格シタル度量衡器ニハ檢定證印ヲ附ス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル度量衡器ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲之ヲ所持スルコトヲ得ス

一 檢定證印ナキモノ  
二 修覆ヲ爲シタル後其ノ檢定ヲ受ケス又ハ檢定ニ合格セザルモノ

三 變造シタルモノ

四 勅令ノ定ムル公差以上ノ差狂ヲ生シタルモノ  
五 命令ノ定ムル構造ヲ具備セザルニ至リタルモノ

第八條ノ二 度量衡器ニ非サルモノ及前條各號ノ一ニ該當スル度量衡器ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外取引上又ハ證明上ニ於ケル度量衡ノ計量ニ之ヲ使用シ又ハ使用ニ供スル爲之ヲ所持スルコトヲ得ス

第八條ノ三 度量衡ニ依ル正味量ノ表記アル商品ニシテ其ノ表記正味量カ質量ヲ超過スルモノハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲之ヲ所持スルコトヲ得ス

第九條 度量衡器ノ製作、修覆、取締及其ノ使用ノ制限該度量衡ノ計量ノ取締ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 當該官吏度量衡器ヲ取締又ハ度量衡ノ計量ノ取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ店舗、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得

第十一條 當該官吏ハ第六條第二號乃至第五號ニ該當スル度量衡器ノ證印ヲ除去シ若ハ消印ヲ附シ又ハ其ノ度量衡ヲ破毀シ其ノ他取締上必要

要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條ノ二 當該官吏ハ度量衡ニ依ル正味量ノ表記アル商品ニシテ其ノ表記正味量カ質量ヲ超過スルモノノ表記更正シ又ハ消去シ其ノ他取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ當該官廳ノ命令ニ從ハサルトキハ行政官廳ハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條、第八條ノ二又ハ第八條ノ三第一項ニ違反シタル者  
二 度量衡ノ計量ヲ偽ルノ目的ヲ以テ不正ニ度量衡器ヲ使用シタル者

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 免許ヲ受ケスニテ度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ業ヲ營ミタル者  
二 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ業ノ停止中其ノ營業ヲ爲シタル者

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ材料ニ處ス  
一 第五條ノ二ニ違反シタル者

二 當該官吏ノ訊問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者

第十六條 度量衡器ノ製作、修覆若ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者、業務

三 變造シタルモノ

四 勅令ノ定ムル公差以上ノ差狂ヲ生シタルモノ  
五 命令ノ定ムル構造ヲ具備セザルニ至リタルモノ

第八條ノ二 度量衡器ニ非サルモノ及前條各號ノ一ニ該當スル度量衡器ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外取引上又ハ證明上ニ於ケル度量衡ノ計量ニ之ヲ使用シ又ハ使用ニ供スル爲之ヲ所持スルコトヲ得ス

第八條ノ三 度量衡ニ依ル正味量ノ表記アル商品ニシテ其ノ表記正味量カ質量ヲ超過スルモノハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲之ヲ所持スルコトヲ得ス

第九條 度量衡器ノ製作、修覆、取締及其ノ使用ノ制限該度量衡ノ計量ノ取締ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 當該官吏度量衡器ヲ取締又ハ度量衡ノ計量ノ取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ店舗、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得

第十一條 當該官吏ハ第六條第二號乃至第五號ニ該當スル度量衡器ノ證印ヲ除去シ若ハ消印ヲ附シ又ハ其ノ度量衡ヲ破毀シ其ノ他取締上必要

上取引若ハ證明ノ爲度量衡器ヲ使用スル者又ハ度量衡ニ依ル正味量ノ表記アル商品ノ販賣スル者ハ其ノ代理人、店主、家族雇人其ノ他從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第十七條 度量衡器ノ製作、修覆若ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者、業務上取引若ハ證明ノ爲度量衡器ヲ使用スル者又ハ度量衡ニ依ル正味量ノ表記アル商品ノ販賣スル者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ此ヲ法定代理人ニ適用ス

但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ヲ科スルコトヲ得ス

第十九條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十條 第六條乃至第八條ノ二、第九條乃至第十二條及第十三條乃至前條ハ勅令ヲ以テ定ムル計量器ニ之ヲ準用ス

第二十一條 本法中罰則ニ關スル規定ハ公務所ニ之ヲ適用セズ

附 則

本法施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十二年勅令第一六八號) 刑法施行法第二十五條第一項第三號中「第七節及ヒ」ヲ削ル 本法施行前ニ於ケル度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ハ命令ノ定ム

第三輯 第五編 産業 第九章 度量衡  
ル所ニ從ヒ仍其ノ效力ヲ有ス

大正十四年十一月五日印刷  
大正十四年十一月十五日六版發行

内務法規全集 奥付

法令研究會編纂

東京・中澁谷・八三〇  
市田賢治  
著作權者兼  
發行印刷人

東京・中澁谷・八三〇  
印刷所 敬文社

著作權  
所有

發行所

東京・中澁谷・八三〇  
敬文社出版部

電話 特異番 八二二番  
東京 六九二七番  
電話 一〇五〇三番  
口徑 七五番



終

